

# 栢木県現代俳句協会報

No. 167



第一六七号

発行所

〒三三三〇〇一六  
小山市扶桑二一八―一〇 中村方

栢木県現代俳句協会

発行人

和田浩一  
松本登子

編集人

令和四年十二月十日発行

## 栢木県現代俳句協会創立35周年記念大会 栢木俳句フェスティバル開催

令和4年10月16日(日)  
於 栢木市・ホテルサンルート栢木

### 歳月の重み

石倉 夏生

ちが、談笑を交わしていた。それは長い  
歳月の交流の親近感であり、築かれた歴  
史の深さでもあった。

第一部の記念式典は、中村克子副実行  
委員長の進行で定刻通りにスタートし  
た。

好天に恵まれた十月十六日、栢木県  
現代俳句協会・創立三十五周年記念俳  
句フェスティバルが、栢木市の「ホテ  
ルサンルート栢木」にて開催された。  
実行委員会が結成され、緻密なチーム  
ワークで準備は万全であった。  
受付を済ませて華やかな会場に入っ  
ていくと、久しぶりに再会した仲間た

開会の辞を中井洋子実行委員長が表明  
し、次いで主催者を代表して和田浩一会  
長の挨拶があった。三十五年前の創立当  
時の経緯を端緒に、コロナ禍で危ぶまれ  
つつ周到な準備で開会できた協力への謝

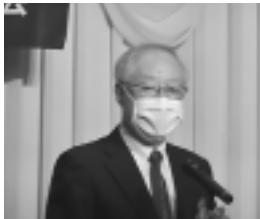


参加者集合

和田会長



佐怒賀副幹事長



意が述べられた。

来賓挨拶は、現代俳句協会本部の佐怒賀正美副幹事長と水野二三夫事務局長より、当協会の活発な活動に触れる祝辞をいただいた。

ひき続き功労者表彰が行われた。それぞれの立場で長年活動された、速水峰郵顧問、水口圭子副幹事長、松本登子広報部長、増山ちさ第一事業

部長の四氏が表彰された。つづいて募集作品の入賞者表彰に移り、選考経過及び成績発表が水口圭子大会事務局長より発表された。大会賞を始め、多くの入選句が顕彰され、賞状染筆等が授与された。講評は佐怒賀正美「秋」主宰より、大会賞作品を中心に的確且つ簡潔なコメントがあった。

大会賞の三人



さていよいよ記念講演である。演題「現代俳句の諸相と未来」について、佐怒賀正美主宰の講演を拝聴した。論旨の中心は世代と作品の傾向を、五十歳という年齢で区分して、高齢俳人の自在な作句精神と、若い作家の果敢な発想の独自性とを、例句を列挙して具体的に比較しつつ、俳句潮流の未来への展望を解説いただいた。中身の深い講演であった。

司会から講師への謝辞が述べられ、閉会の辞を日向野初枝監査役が、当協会の長い歴史の印象を結びの言葉として閉会となった。

盛沢山の記念式典が終了し、小休止のあと第二部の記念句会の佳境に入っていた。

### 特別功労者表彰

- |        |      |
|--------|------|
| 顧問     | 速水峰  |
| 副幹事長   | 水口圭子 |
| 広報部長   | 松本登子 |
| 第一事業部長 | 増山ちさ |



# 実り多き一日

本間 睦美

が授与された。

また、石倉夏生氏と速水峰郵氏による講評があった。短時間内で兼題による作句の難しさを踏まえた上での選句のポイントなどが示された。

記念句会は記念式典前に出句が終了し、式典後に水口圭子氏、北島洋子氏の司会により進行された。

披講は感染症防止のため行われず、選者による選句並びに成績発表と講評が行われた。

大会賞三句、秀逸七句、佳作十句にも賞品が授与され、さらに八人の選者による特選句には、各選者による染筆

た、会員全員への労いの言葉が述べられた。

感染症対策により、アトラクションや席の移動の自粛、さらに卓上のアクリル板越しの会話という、限られた中での祝賀会ではあったが、それぞれに参加者同士の会話も弾み、親交が深められたひと時であった。

最後は須藤火珠男参与による激励を込めた締め言葉により閉宴となった。

出席者一人ひとりが、本会三十五周年の歴史に思いを馳せ、さらに俳句への思いを強く感じた実りの多い一日であった。



# 栃木県現代俳句協会創立35周年記念大会 栃木俳句フェスティバル入賞作品

(広報部)

## ◎大会賞(3名)

耳鳴りの奥に海鳴り沖繩忌 松本登子  
麦刈機だんだん戦車になつてくる 大竹照子  
一人ずつ抜けてひとりの日向ぼこ 中村克子

## ◎秀逸賞(10名)

鶏頭を砦のように婆が棲む 水口圭子  
夏星や詩の源流として孤独 水口圭子  
文箱から八月十五日の風 北山暁亀  
田水張る空の力を招き入れ 白井正枝  
統合の小学校歌風光る 須田初江  
春風や浮力をためる象の耳 水口圭子  
蜃気楼消えて戦車の残さるる 中村克子  
ひとひらにひとひら寄りて花筏 中村克子

病むことも私の履歴梅雨晴間 江口 悠  
薫風に開き昭和の母子手帳 中田陽子  
和田浩一

## ◎特選賞

佐怒賀正美先生 選

河骨や揺れているのは吾が言葉

山野井朝香

夏季戦の殊勲打たたえ師の弔辞

王 騎

影置いて帰る一団さくらの夜

中村克子

水野 星闇先生 選

梅雨晴れの屋根へ乳齒の放物線

中村亜希子

耳鳴りの奥に海鳴り沖繩忌

松本登子

放水のダムが虹生み殉職碑

和田浩一

和田 浩一 選

蜃気楼消えて戦車の残さるる

中村克子

防人街道枯木の森を貫きて

野澤初江

生麦のガムの歯応え風の中

塩田一恵

大嶋 邦子 選

本当の平和が欲しい広島忌

高木洋子

中井 洋子 選

春闘に鉄砲は無し朝刊閉づ

中田陽子

石倉 夏生 選

鳩として浮き親鸞として沈む

吉田栄一

速水 峰郎 選

春風や浮力をためる象の耳

水口圭子

須藤火珠男 選

夏星や詩の源流として孤独

水口圭子

中村 克子 選

文箱から八月十五日の風

北山暁亀



# 記念句会

席題「雲」

広報部

## ◎大会賞（3名）

路線図のいづれの先も罫雲 山野井朝香  
ふつふつと漂泊どころいわたし雲 水口圭子

柵のなき空に戦禍やひつじ雲 白井正枝

## ◎秀逸賞（7名）

力抜くために歩きぬ秋の雲 大竹照子  
いわし雲齡問われて言い淀む 相田勝子

退院の空へ余さずうろこ雲 小川たか子  
てっぺんは雲に届いて柿熟す 増山ちか子

立ち泳ぐ鯉の口洞雲の秋 日向野初枝  
十字路に献花のあふれ秋の雲 和田浩一  
菊の香を母居る雲へ近づける 松本幸子

## ◎特選賞

佐怒賀正美先生 選  
路線図のいづれの先も罫雲 山野井朝香

水野 星闇先生 選  
ゴッホになれそう秋の雲見ておれば

北島 洋子

和田 浩一 選  
退院の空へ余さずうろこ雲 小川たか子

中井 洋子 選  
路線図のいづれの先も罫雲 山野井朝香

石倉 夏生 選  
柵のなき空に戦禍やひつじ雲 白井正枝

速水 峰邨 選  
菊の香を母居る雲へ近づける 松本幸子

須藤火珠男 選  
入道雲「おいおい」と都会っ子 中村しま子

中村 克子 選  
柵のなき空に戦禍やひつじ雲 白井正枝



# 第30回現代俳句色紙展

令和4年11月19日(土)・20日(日)

とちぎ岩下の新生姜ホール大会議室

晩秋のおだやかな二日間、三年ぶりの色紙展が開催された。  
会場には、会員の短冊・色紙・はがきで一句の力作がゆつたりと飾られ、色とりどりの秋の草花が趣を添える。  
今回の特別コーナーは『功労者の面影(墨書



と写真』と題して、石田よし宏・大木石子・加藤洋・柴崎草紅子・田浪富布・橋本昭次・前原良子・松本文子の八名。「追想」として、茂木恭子・高橋森衛の両名。  
各氏の個性豊かな色紙・短冊と共に、思い出の写真も飾られ、参観者の目を惹きつけた。

展示会終了後は、記念撮影のあと、会長あいさつ、経過報告、米寿・傘寿祝贺会、一人一言を付けての色紙短冊交換会を実施。



米寿の堀秀子さん。傘寿の須藤火珠男さん・松本廉子さん・青木廣子さん・石倉夏生さん・日向野初枝さん・大竹照子さん・中井洋子さん・大豆生田伴子さんの計九名には、お祝いの薔薇の花束が贈られた。  
大きな拍手に包まれ、和やかな雰囲気の中、色紙展の幕が引かれた。  
みなさま、おつかれさまでした。

(広報部)



お祝いの花束を受ける9名

出品目録一覽

さくらあおぞら淋しくないと云えば嘘

和田浩一

手と手と手と手と手と手沖繩忌

和田浩一

蛭にも人にも待つといふ時間

中井洋子

静止した舌を冷やせる揚羽蝶

中井洋子

冬靄の深きにわが家わが帰る

日向野初枝

新社員スーツに体すなほなり

日向野初枝

鏡拭いていつもひと言花明り

堀 秀子

風は友しなやかに生き花芒

堀 秀子

送り火を跨いで母の手を放す

和田璋子

火吹竹つとたましひの蘇る

齋藤 稔

鯉吐きし大きな泡や神の留守

青木廣子

豚汁の味整へて文化の日

青木廣子

立冬の神々の耳巨きかり

相田勝子

林檎箱に子兎なじむ春夕焼

大竹照子

童話よむはやさに降りぬ牡丹雪

大竹照子

晩年のじぎぎ鳥瓜の花

戸田富美子

炭酸の弾け少年膨らみぬ

戸田富美子

廃校の「金次郎」像草の花

小杉栄美子

団塊の世代浴けゆくかき水

中田陽子

耳奥に胡弓の音色二百十日

中田陽子

逃水の先はガラスの動物園

山野井朝香

この家に静かな空気ラ・フランス

山野井朝香

生き生きと廃屋を埋め葛の花

橋本尚子

マンホールの馬の絵は翔け天高し

橋本尚子

微酔して夜の秋思に深入りす

石倉夏生

白桃の中は湖かも知れず

石倉夏生

小鳥来る湖はまばゆき羅針盤

松本登子

夕闇に焼芋の声包まれし

滝澤良恵

沢音を付かず離れず萩の道

滝澤良恵

炎天や打者に投手の凝視なほ

中村國司

ねこじやらし手に手に校門迄の道

佐々木輝美

父の日の笑い話に父の恋

佐々木輝美

我が父に似たる男の懐手

佐々木輝美

歩く人草を刈る人走る人

斎藤絢子

小綬鷄の親子行列戦あるな

斎藤絢子

遺言は「延命無用」冬薔薇

須藤火珠男

生きること死ぬこと嫌でホトトギス

田中房子

田中房子

田中房子

田中房子

露を煮てふたりの距離を近づける

遊座純子

天領に校舎を浮かべ青田波

王 騎

秋耕の腰を伸ばして遠筑波

王 騎

たんぼぼに囲まれて身が少し浮く

増山ちさ

こんな秋晴家出などしてみたし

増山ちさ

レンジで一分冬の雲あたたためる

北島洋子

本を読もうかしやぼん玉飛ばそうか

北島洋子

古利根の水の夕焼椒郵忌

北島洋子

滝枯れていまほんたうの山の音

速水峰郎

明るさに戸惑ひるたる吾亦紅

速水峰郎

車窓から駅弁を呼ぶ昭和の日

速水峰郎

伝言板の名前を捜す昭和の日

高木洋子

ひとりずつ離れて座る臚かな

高木洋子

一人ずつ抜けてひとりの日向ほこ

中村克子

ヤングケアラ〜ちいちゃんは汗っかき

中村克子

タンポポの穂絮のとんで音楽会

小林たけし

砂時計裏返す度霞立つ

小林たけし

開拓の瘦せ地見晴らす蕎麦の花

松本廉子

日溜りを分け合う二人冬の縁

松本廉子

黒揚羽古事記の中を過りけり

沼田 満

春風や浮力をためる象の耳

沼田 満

水口圭子

水口圭子

水口圭子

水口圭子

## 令和5年度 総会及び新春俳句会のお知らせ

新型コロナウイルスも未だ収束が見えませんが、ソーシャルディスタンスを保ちながら、下記の通り開催致しますので、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い致します。

### 記

- ◇日時 令和5年1月15日(日)  
午後1時受付 1時30分～4時
- ◇場所 小山市生涯学習センターホール  
(小山駅西口 ロブレ6階)  
電話 0282-22-9111
- ◇会費 500円
- ◇作品 雑詠2句(出席者のみ)
- ◇返信締切 令和4年12月30日(金)必着

- ※ 特別選者は染筆をご用意ください。
- ※ 懇親会は中止とします。

### ◇新入会員紹介

- ・滝澤良恵(小山市) 推薦者 和田浩一  
春ささす「風の電話」に丸い椅子  
ほおずきの模様の弾みすべり台  
焼き芋の形を残し新聞紙
- ・王 騎(小山市) 推薦者 和田浩一  
初孫や新酒を添えて初穂料  
母真似て百合嗅ぐ瞳閉じにけり  
変声期父を遠ざけ青き踏む
- ・橋本尚子(小山市) 推薦者 和田浩一  
風光る爪先天に太極拳  
水切りの七つ弾みて山笑う  
スプークに桜巻き上げ通学路
- ・五十嵐すず(壬生町) 推薦者 和田浩一  
鉄線花支柱を避けて自在なり  
土壁の崩れしままに大西日  
雪の下天麩羅にして蕎麦の友

### ◇お知らせ

- 梅田弘祠  
現代俳句十月号に作品「アガベ」十句  
が掲載されました。
- 横井康子  
現代俳句十月号に「『現代俳句年鑑

2022』を読む」が掲載されました。

○幸田慶三郎

現代俳句十一月号に「『現代俳句年鑑2022』を読む」が掲載されました。

○佐藤道子

転居のため、令和四年十一月より賛助会員になられました。

### \*役員会開催

- 於 小山市生涯学習センター
- ・7月13日(木)
- 令和4年度第2回役員会
- ・9月28日(水)
- 第3回役員会・実行委員会

※次回168号の

原稿締切りは

1月31日です。